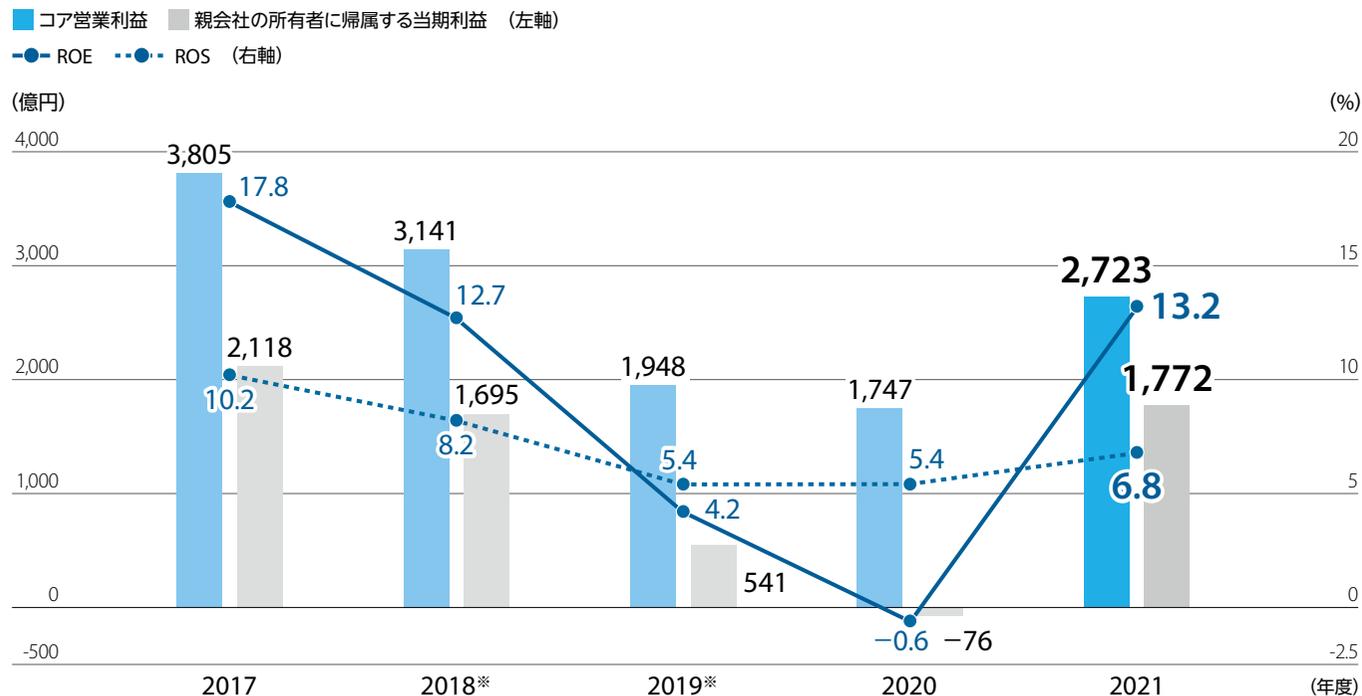


# 財務ハイライト

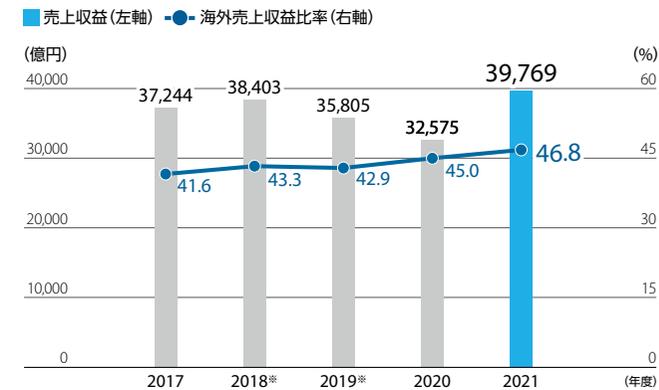
※ 非継続事業に係わる数値を控除しています

## 利益とROS、ROE



2017年度は素材分野の収益が拡大し、機能商品分野を中心に数量が伸長した結果、コア営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益のいずれも過去最高となりました。2018年度以降は、景気後退や米中貿易摩擦、新型コロナウイルス感染症による影響などの経済環境悪化に加え、ヘルスケア分野における仲裁手続き中のロイヤリティ収入非計上の影響などにより収益が悪化しました。2021年度は新型コロナウイルス感染症による影響から各国の経済活動に持ち直しの動きがみられる中で、国内外の需要が回復基調で推移しました。このような状況下、2021年度のコア営業利益は前期比976億円増(+55.9%)の2,723億円となり、ROSは6.8% (前期比+1.4ポイント)となりました。親会社の所有者に帰属する当期利益は、非経常項目において前期に計上したヘルスケア分野における減損損失が減少したことに加え、当期に結晶質アルミナ繊維事業の譲渡に関連する利益を計上したことなどにより前期比1,848億円増の1,772億円となりました。ROEは13.2% (前期比+13.8ポイント)となりました。

## 売上収益と海外売上収益比率



2021年度の売上収益は、需要の回復による販売数量の増加や、素材分野における原料価格上昇に伴う販売価格の上昇などにより、前期比7,194億円増(+22.1%)の3兆9,769億円で過去最高となりました。海外売上収益比率は、前期比+1.8ポイントの46.8%となりました。

## 海外地域別売上収益



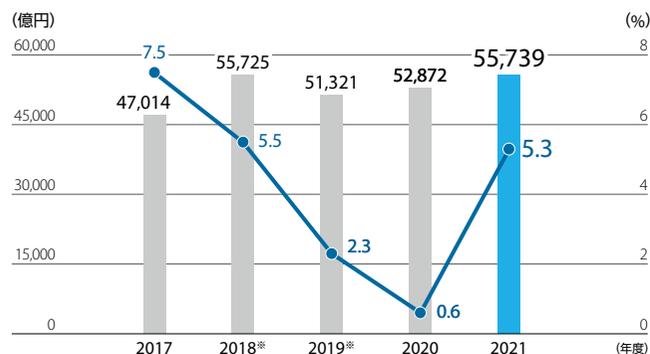
欧米、その他アジアにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響から需要が回復基調で推移したことに加え、円安による換算差の影響などにより、前期比で増加しました。

## 財務ハイライト

※ 非継続事業に係わる数値を控除しています

### 資産合計とROA

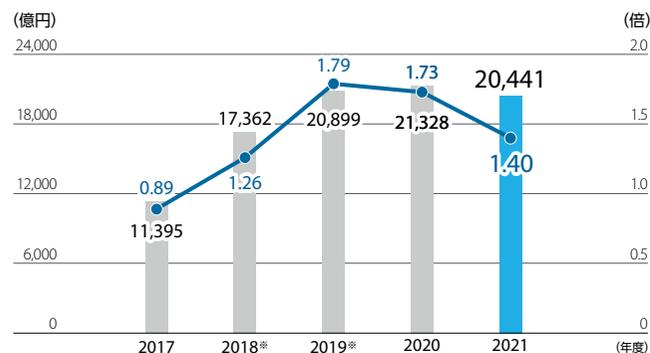
■ 資産合計 (左軸) ● ROA (右軸)



資産合計は5兆5,739億円となりました。円安の進行に伴う在外連結子会社の資産の円貨換算額の増加や、原料価格上昇などによる棚卸資産の増加および売上収益増加に伴う営業債権の増加などにより、前期比2,867億円増加しました。ROAは5.3%となり、前期比で+4.7ポイントの改善となりました。

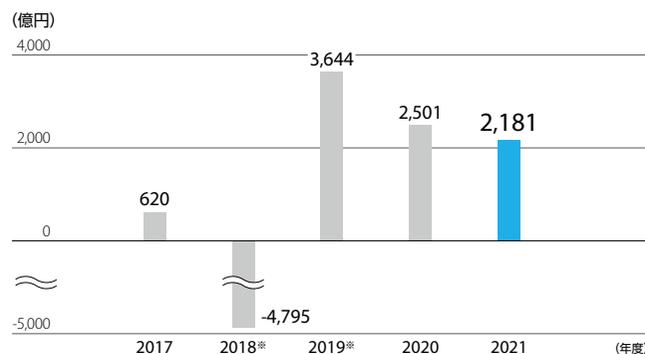
### ネット有利子負債とネットD/Eレシオ

■ ネット有利子負債 (左軸) ● ネットD/Eレシオ (右軸)



ネットD/Eレシオは有利子負債の返済や為替影響などにより前期比0.33減少し1.40となりました。コスト削減、利益成長、事業売却などによりキャッシュ・フローを拡大し、着実に有利子負債を削減することで、0.5 ~ 1.0倍への改善をめざしていきます。

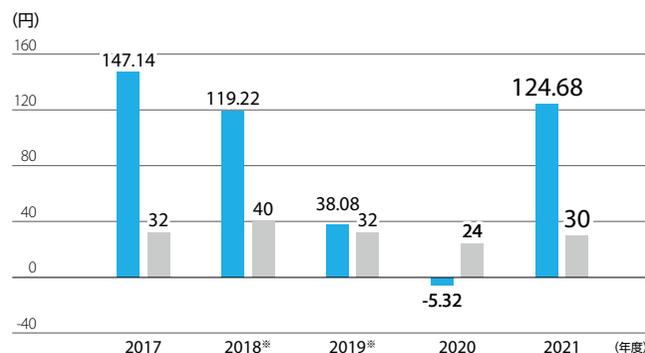
### フリー・キャッシュ・フロー (FCF)



営業活動によるCFは、運転資本の増加などがあったものの、税引前利益や減価償却費などにより3,469億円の収入となりました。投資活動によるCFは、事業譲渡などによる収入があったものの、固定資産の取得などにより1,288億円の支出となりました。結果、FCFは2,181億円の収入となりました。

### 基本的1株当たり当期利益と1株当たり配当金

■ 基本的1株当たり当期利益 ■ 1株当たり配当金



2021年度の基本的1株当たり当期利益は124.68円となりました。1株当たり配当金は、財務状況および今後の事業環境を総合的に勘案しています。2021年度は需要の回復などによりコア営業利益および親会社の所有者に帰属する当期利益が増加したことに伴い、前期比6円増の年間30円としました。

### 親会社の所有者に帰属する持分比率



親会社の所有者に帰属する持分は1兆4,581億円と、前期比2,218億円の増加となりました。親会社所有者帰属持分比率は26.2%と前期比+2.8ポイントとなりました。

### 研究開発費と設備投資

■ 研究開発費 ■ 設備投資



2021年度の研究開発費は新型コロナウイルスワクチンなどの研究開発費の増加により前期比305億円増の1,566億円となりました。設備投資は前期比91億円減の2,546億円となりました。